

式辞

春爛漫、桜花咲き誇り、
若葉の光も、一段とさわや
かさを増し、新入生のみな
さんを、心から、歓迎して
くれています。

早朝より、多數のご来賓
のみな様、そして保護者の
みな様のご臨席をいただき、
二〇一五年度、七一期生の
入学式を挙行できましたこと、
心から感謝し、厚くお礼申

一あげます。

さて、新入生のみなさん、
入学おめでとう。

今日から伝統ある住吉中
学校の生徒です。

今、壇上からみなさんの
顔を見ていると、どの人の
目も清らかに澄み、「さあや
るぞ」という強い意思が
伝わってきます。

その目が語っている
今のみなさんの心の姿を
「初心」と言います。

どうかその初心を大切に
しつかりと前を見つめて
中学校生活を始めてください。

本校入学を契機として、
新しい自分を探す旅の始ま
りです。中学の3年間を、
実りあるものにするために、
一日一日を大切に過ごして
欲しいと願っています。

そこで、入学に当たり
二つのことをお話をしたいと
思います。

一つ目は、不思議な竹のお話です。

中國には不思議な竹があるそうです。その竹は、農家の人たちが種を植え、肥料と水を与えて育てるそうです。

一年目は、何も起こりません。二年目も一生懸命、水と肥料を与え続けるのですが、芽すら出さず、土も勝らまず何の変化もありません。

三年目も四年目も何も起
こりません。

しかし、五年目のある
雨の日の明け方を境に、
突然成長を始め、
わずか六週間で
二十七メートルの高さに
まで成長します。

みなさんもこの竹に
似ています。みなさんの
将来にはいろいろなこと
が用意されています。
この竹のように

ある時期を境にすさまじい勢いで、みんなさんの才能が花開く時期がきっどあります。

しかし、やつてもやつても何も起こらない時期もあります。

目には見えませんが、その時こそ、地面の下では、将来の成長に備え、下へ下へと根を生やしているのです。

この根のことを昔の人は

「命の根」と言いました。

これから始まる中学校時代は、みなさんの「命の根」をしつかりと下へ伸ばす時期とも言えます。

「あなたの心の庭に忍耐を植えなさい。その根は苦いが、実は甘い」

という言葉があります。

これから始まる中学校生活は、楽しい事ばかりはありません。我慢したり耐えたりしなければ

ならない」ともたへさん
あります。

しかし、その時こそ、
みなさんの「命の根」が
しつかり伸びていて
時だと自覚してくださる。
困難から逃げてばかり
いたらこの根は育ちませ
ん。せつかみなんらんの
才能も枯れてしまいます。
ある日を境にすさまじく
成長するその時まで、忍耐
と我慢という栄養を、

奮える努力を続けて
ください。

2つ目は、君たちの顔が
ひとり一人、違うように、
考え方や、体つきも違って
います。

体の丈夫な人・障害のある
人・力の強い人・弱い人、
いろいろな、

個性のある人が集まつて、
学習するところが、
この住吉中学校です。
相手のことを考え、

行動でかかる生徒に育つて
ほしいと願っています。

「互いの個性を尊重し、
達いを認め合う集団」を
つくりましょう。

今日からみなさんは「人
にやさしい学校、人にやさ
しい心」を育てるために、
在校生のみなさんと、一緒に
に取り組んでいきましょう。
保護者のみな様、私は
目標として「人にやさしい
生徒・人にやさしい

「住吉中学校」づくりを目指し、積極的に取り組んでまいります。

そして、本校職員と一緒にとなって、学力の向上に努めてまいります。

しかしこれは、保護者のみな様のご協力なくしてはできません。

どうぞ、絶大なるご支援をお願いいたします。

教育は、林業に似ています。一年で、花や実のなる

農業とは違い、一〇年先、二〇年先になるかは個人により違いがありますが、まっすぐ立派な木として成長することを願う作業です。学校・家庭・地域が一体となつて、子どもたちの心に「わがまま」「自分勝手」という横枝が生えてきたときは切り取り、堂々とした大木になるよう、ともに育てていきましょう。

ようしくお願ひいたします。

簡単ではござりますが
式辞といったします。

二〇一五年四月四日

大阪市立住吉中学校
校長 村瀬香織